

## 令和元年度木更津市社会教育委員会会議第2回定例会 会議録

- 1 会議名 令和元年度木更津市社会教育委員会会議第2回定例会
- 2 開催日時 令和元年10月10日(木)午後2時～4時
- 3 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室A2
- 4 出席者名  
委員：佐藤千明、鉢村美幸、森廣賢一、安藤順子、城戸富貴、吉田裕子、橋本ミチ子、伊藤素子、地曳昭裕、内田慎一郎、熊本秀樹(11名)  
事務局：高澤茂夫教育長、岩埜伸二教育部長、秋元淳教育部次長、野口琢郎生涯学習課長、鈴木和代課長補佐、木村容子副主幹、秋川裕也事務員(7名)
- 5 協議事項
  - (1) 各種審議会・協議会報告について
  - (2) 第54回君津地方社会教育推進大会について
  - (3) 社会教育施設のあり方について(視察研修報告及び意見交換)
  - (4) その他
- 6 会議の公開・非公開の別及び傍聴人の数 公開・傍聴人0名
- 7 資料  
令和元年度社会教育委員会会議第2回定例会次第  
第54回君津地方社会教育推進大会  
社会教育委員視察研修資料  
第54回千葉県社会教育振興大会の開催について(通知)  
令和元年度公民館文化祭(まつり)視察研修の開催について(通知)  
社教情報No.81(冊子)  
わたしのまちの社会教育委員さん  
木更津市生涯学習フェスティバル2019記念講演会募集チラシ

## 8 会議の内容

事務局 ただいまより令和元年度木更津市社会教育委員会議第1回定例会を開催いたします。本日は、委員18名中、11名の出席、欠席は7名となっております。

従いまして社会教育委員会議運営規則第3条第2項の規定により、委員の2分の1以上の出席がございますので、会議は成立しております。

なお本会議は木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されておりますが、本日の傍聴人にはおりません。以上報告いたします。

それでは、始めに、内田議長からご挨拶をいただきます。

内田議長 皆さんこんにちは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

台風の被害の方はいかがでしたでしょうか。私も、初めて市役所で罹災証明を取りましたし、仕事の面でも様々な対応をすることになりましたが、皆様も同じような状況ではなかろうかと思っております。また、今週末にも台風が来るということで、備えなければならぬのですが、こういう時こそ皆さんで知恵を絞って、社会教育の力を示すべきところだと思います。

限られた協議時間でございますが、ぜひ実りある会議したいと思っております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

事務局 ありがとうございます。

続きまして、高澤教育長よりご挨拶を申し上げます。

高澤教育長 皆さんこんにちは。お忙しい中、第2回の会議にご出席いただきありがとうございます。

内田議長からもお話がありましたが、台風15号につきましては、大変甚大な被害があり、罹災された方、それから長引く停電で大変不自由な生活を強いられた方がたくさんおいでになると思っております。お見舞い申し上げたいと思っております。

今回の災害につきましては、住宅の損壊等が全壊、半壊、屋根・外壁等の一部損壊合わせて3,870件と市内の広範囲に及びました。公共施設につきましても30校すべての小中学校で、雨漏り、ガラスの破損、倒木と、かなりの被害が出ました。それから、停電も長引きましたので、休校の学校も随分ありましたし、午前中だけの授業という学校も随分ありました。一番長く続いたのが八幡台小学校で、次の一週間すべて休校でした。今その欠けた授業数をどうするかということで、一日7時間授業にするなどやりくりをしています。

それから、市内の2万件を超える家庭が停電をいたしました。朝日庁舎も3日間停電でしたので、業務がすべてストップし、市民の皆さんにも大変ご迷惑おかけしました。公民館の方も、避難所と言いながら、ずっと停電が続きました。一番最後まで停電だったのが富来田公民館で、電気が通じたのが10日後の18日でした。

また、台風19号が今週末に来るようです。前回のような被害が出なければよいと思うのですが、先んじて準備をしていただければと考えています。

さて、お陰さまで今年もちょうど半分が経過し、折り返しを迎えています。これから木更津市の行事であったり、教育委員会の行事であったり、数多く開催される予定になっています。10月下旬からは、各公民館を中心に、各地区の文化祭が開催をされます。11月17日には今年度の生涯学習フェスティバルも予定をされています。社会教育委員の皆さんにはそれぞれの形の中で、ご協力いただければと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

本日の会議につきましては、7月の視察研修等を中心にしながらの協議になるかと思っております。どうぞ忌憚のないご意見をいただければありがたいと思っております。本日

どうぞよろしく願いいたします。

事務局 ありがとうございます。会議に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。

**資料確認**

それでは、会議に入って参りたいと存じます。今後の進行につきましては、木更津市社会教育委員会議運営規則第2条第4項により、議長をお願いいたします。

内田議長よろしく願いいたします。

内田議長 それでは、まず協議事項1、各審議会、協議会報告についてということで、報告事項があればお願いしたいと思います。

まず木更津市青少年問題協議会の橋本委員、何かございますか。

橋本委員 社会教育に関係したことで、父親が子育てについて学習する機会、子どもを理解するための学習機会を増やして欲しいという意見が出ました。それから、DVの問題、その対策についても話題になりました。また、中高生のスマホの使用について、事前の教育が必要ではないかということについても、社会教育としてもとても大事な点だと思いました。以上です。

内田議長 ありがとうございます。次に生涯学習推進協議会委員の安藤委員いかがでしょうか。

安藤委員 生涯学習推進協議会委員としてフェスティバルの実行委員に出ているのですが、今年も11月17日に木更津市民会館中ホール等で、フェスティバルが開催されますので、とても期待しています。以上です。

内田議長 ありがとうございます。図書館協議会にご出席いただいている鉢村委員、いかがでしょうか。

鉢村委員 7月6日に図書館協議会が開催されました。1回目の会合で、初めて図書館協議会に参加させていただくという方も何人かおりましたので、顔合わせ的な要素が強かったと思います。

図書館の方から、こういう活動をしているというご案内があり、図書館の働きについて認識を深める機会となりました。その中で、今年4月からの新しい取り組みとして、赤ちゃんの4ヶ月健診に本を配布する「ブックスタート」の取り組みについてお聞きしまして、素晴らしいと思いました。今後、その事業に取り組むための人員が不足することが予想されるということでございましたので、私が在籍する君津学園で、短大、それから高校の方にも保育コースがございますので、そちらで、何かお役に立てることがあるのではないかとということをお話させていただきました。学校に持ち帰り、聞いてみたところ「ぜひやってみたい」ということでしたので、そういったことで、今後も、図書館行政に対して私たちが力を発揮していければよいと思いました。以上です。

内田議長 ありがとうございます。それぞれの委員の皆様方また今後ともどうぞよろしく願いいたします。

続きまして協議事項の2番目でございます。第54回君津地方社会教育推進大会についてでございます。こちらについては、私が出席をいたしましたので、感想などを報告させていただければと思います。今年は昨年に引き続き富津公民館で行われました。まず社会教育推進大会ということで表彰者があり、本日は、ご欠席なさいっておりますが、鶴岡委員が、公民館運営審議委員として受賞されました。改めて、お祝いを申し上げたいと思います。また例年のことですが、あわせて新日鉄さんのクローバー賞の授賞式も行なわれました。

そして、記念講演は、笹生衛さんという、国学院大学の先生が、「遺跡から読み解

く気候と社会の変動」というテーマでご講演をいただきました。笹生先生は、地元高校のご出身で、本当にこの地方のことをよくご存知の方で、ここ数年の小糸川や小櫃川流域の地形、遺跡の変化から、見えてくる地球レベルの気象変動などを研究されているそうです。

他に参加された方、いかがでしょうか。

城戸委員

私たちが今進んでいるところの下には何層にも地層があって、それぞれにその時代を生きてきた方々がいらしたのだという、そういうお話がとても頭に残っています。とても興味深く聞かせていただきました。

鉢村委員

初めて、推進大会に参加させていただきました。駐車場も会場もいっぱい、こんなにたくさんの方々が、地域のために、日々、働き、心を砕いていらっしゃるのだということを感じまして、すごく心強く思いました。

内田議長

何かご質問、ご意見等ございますが、よろしいですか。

ないようでしたら、次に協議事項（３）「社会教育施設のあり方について」です。こちらについては、7月4日に社会教育施設と学校の複合化事例を視察して参りましたので、その報告をもとに、将来的な社会教育施設のあり方について意見交換をしたいと思います。

視察研修にご参加できなかった委員もいらっしゃいますので、まず、概要を事務局よりご報告いただき、その後、参加された方からの補足、感想などをいただきながら、議論を進めていければと思います。

それでは、視察研修報告を事務局よりお願いいたします。

#### 事務局より報告

内田議長

視察研修について事務局より報告がありました。現在のところ、木更津市において複合化が具体的に動いているわけではありませんが、市の公共施設再配置計画の中で複合化に言及していることもあり、将来的に社会教育施設と学校等が複合化される可能性もあります。

今回の視察を通して、学校と他の機能を持った機関が同じ建物の中にあるとどうなるか、ということを実感するとともに、社会教育施設のこれからのあり方について、委員それぞれが感じたことがあるかと思えます。木更津市の社会教育施設にどのような機能と役割を求めていくのか、少し時間をとって協議してみたいと思います。

橋本委員

視察した2市の施設と木更津市との違いは対象地域の広さです。木更津市の場合には利用者のほとんどが車です。車で来るということは、その施設には必ず大きな駐車場がなければいけないということがあります。

吉川市美南小学校の先生は3、4年前から、この地域に必要なものは何かという話し合いを市民と一緒にしていて、それをもとに、施設ができ上がったという言い方をしていました。ということは、最初から「こういうものを作りますよ」ではなく、市民が必要としているものは何かというところからスタートしたのが、やはり一番成功に近いのではないかと思います。それで、中郷小学校を作るときは、どんな手順で話し合いが進んだのかなということが気になりました。

内田議長

ありがとうございます。今の橋本委員の中郷小のことについて、わかる範囲でよいのですが、こういった学校にしてほしいとか、地域の方たちと何かキャッチボールみたいなものはあったのでしょうか。

岩埜部長

小学校については、地元の方の意見を取りながら作ったと聞いております。今後いろいろな形で有効に利用できる、地域の核ということで精査して、作られたと

考えております。以上です。

橋本委員

一昨年、中郷中学校の体育館で、講演会がありました。その時、そこに集まった住民の意識と、これから衰退していくこの町を何とかしなければならぬと仕掛けた（主催した）側との意識がすごく違っていたと感じました。仕掛けた側が、「こうしたいのだけど何かいい策はありませんか」というような、過去の例から答えをもらうような投げかけ方だったのに対して、参加した住民の人たちは「何をやるのだろう、やってくれるのだろう」という感じで、参加した人の中から「私たちはこうしたい」という意見が出てなかった。

市民の意見が沸き上がるような話し合いを工夫していかないと駄目なのかなあと思いました。講師の話がとても良かったのに、そのあとが続かない。その仕掛け方が大きいと思いました。

内田議長

ありがとうございます。そういうことの教訓を生かして、今後取り組んでいただけたらということですね。地曳さんはいかがですか。

地曳委員

今、公共施設再配置計画という中で、木更津市は中ホール建設の検討をしています。それで総務部が中心となって今ワークショップとかいろいろやっていますが、僕は建設反対の立場で、ワークショップに参加しています。

視察した小学校は、長い時間をかけて、地域住民と話し合っているんですけど、木更津市は、教育委員会からは文化課の課長さんが同席していますが、ワークショップの司会から内容から市職員が主導するのではなく、すべてそのコンサルティング会社がやっています。話し合いの主体は市民ですが、リードするのが、市の職員ではなく、外部（コンサルタント会社）の社員がやっていることに違和感があります。確かに市の職員は忙しいのかもしれないけれど、そういう話し合いの中で、市の職員がいろいろと市民と触れ合うということがあるのに、ただ、話し合いの様子をじっと聞いているだけで、同じ部屋にいるのに、会話をするわけでもなく。

今、実際、中ホール建設に向けてやっていることが、視察してきた小学校のケースとは雲泥の差があると感じました。

教育部ではなくて総務部が担当で、何年後にということは明言されないのですが、その中ホール建設に関しては、もう作るつもりのような雰囲気です。そういうことは、教育委員会の方にはどのような形で伝わっているのでしょうか。

岩埜部長

私も検討委員会に委員として出席しています。ワークショップの中の意見を踏まえた上で、700人程度の中規模ホール、200～300人程度の多目的ホールを考えています。700人収容であれば、成人式ができます。委員の中には音楽のプロの方もいますが、音響的なものも配慮し、文化課が所管している自衛隊や県警の音楽隊のコンサートもでき、自主事業としても市民の方に芸術文化事業を提供できるものでございます。

また、公民館のサークル活動の結果発表会などのためには700では大きいので200～300人の多目的ホールで、稼働式でダンスもできるという機能が必要だろうと。これもワークショップからの意見を取り入れたと聞いております。

地曳委員

基本的に、その中規模ホールは、もう作るという方向なのでしょうか。

岩埜部長

市としては、大ホールは（市を越えて）広域的に、市単独では700人規模のホールを作ることを目指して、基本構想も終わっていますし、今基本計画を作っているところで、位置的なものもある程度示されています。教育部としてもそのようなホールは欲しいと思っています。

再配置計画では木更津駅西口を交流基点として回流しながら中規模ホールまで持

っていくような形で、西口駅前を整備したり、パークベイも具体化してくると思います。

地曳委員　私は、金田地域交流センターは、いろいろな評価があると思うのですが、「過ぎた施設」だと思っています。必要以上なお金をかけ、交流センターの域を超えている。だから、今の中規模ホールもそうですが、再配置計画と言いながら、これは総務部に聞かないといけないのですが、公民館の使用料も含めて、財政状況が厳しいと言いつつ、実際に作る施設は、かなり実行期間を過ぎているものがあるし、中規模ホールは、かなり機能が複合していますから、私はまた過ぎたものになるんじゃないかと危惧しています。ある程度流れが決まってしまうと、後戻りできないっていうか、検証できなところがあって、ワーキングショップにもおかしなと思いつつも参加している状況です。

岩埜部長　金田地域交流センターにつきましては、金田バスターミナルなどの整備と合わせてまちづくり交付金をもらって作っています。一般財源、税金だけじゃなくて、国の交付金を利用するなど特定財源を有効に活用して作られている施設です。

内田議長　ありがとうございます。少し整理します。学校と社会教育施設の複合化について、皆さんにあと30分ぐらい討議をいただこうかと思っています。橋本さん、地曳さんから、施設を作るにあたっての手法というか、そういうものも大事だよというお話をいただきました。それを踏まえた上で、学校等、社会教育施設の複合化がもたらすメリットとかデメリットを皆さんとお話できたらと思います。

それで、多分30分じゃ終わらないと思いますので、引き続き、次回定例会でも話し合いを持ちたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは一人一人ちょっとご意見をいただければと思います。吉田さんいかがですか。

吉田委員　私もこの視察に参加させていただきました。子どもたちにとって、そこに公民館があって、地域の人たちがいつもいることが普通のことになっていて。そのことを踏まえて、木更津では、中学校区に15公民館がありますが、子どもたちがどれだけ公民館に関心があるのかなと思います。そういうことを考えると、もう少し学校と公民館が連携していて、公民館がどんなところで、こんな活動をしているよということが、子どもたちにわかれば、子どもたちも大きくなって、公民館を使ってみよとか、公民館はこういうものかということが日常的に、感じられる場所になってくれたら木更津の場合はいいのかなとは思いました。

先日の台風ではとても大変でしたが、公民館は、土嚢やブルーシートなどを配布する拠点になりました。私は八幡台に住んでいますが、台風の次の日にもかかわらず、予定どおり公民館でカフェが開かれて、そこでいろいろな情報を得ることができました。「あそこの林道は通れない」とか、「あそこは危ないから車で行っちゃいけないよ」とか。やはり公民館はそういう地元の情報がものすごく集まる場所なので、この先、管理にお金かかるから統合するという話でしたが、今回の災害を通して、公民館はいろいろなことを発信したり、情報収集をして、そこから市と連絡を取ったりする場であることを確認して、「公民館を減らそうというのは反対」と私は大きな声で言いたくなってしまいました。4日間の停電に見舞われてそう感じたので、やはりこれから公民館はどうあるべきか、公民館と住民がどうつながっていくかというのはすごく大事だと思いました。

視察をした2つは、とても素晴らしいところで、やはり引っ張って人がいれば、スムーズにいろいろな話が進んでいくのかなと思いました。素晴らしい施設を見せ

ていただいてよかったです。

伊藤委員 私も視察に参加させていただきました。私は中学生と小学生と幼稚園の3人の子どもの母親で、公民館サークルや母親学級にも参加したりしているので、やはりユーザー視点で施設を見てしまいます。そうすると、例えば、新しい施設で素敵な音楽室ができるのであれば、その音楽室はその学校の授業がなければ公民館のサークルがその施設を使い切れることが魅力的だなあと思いました。あとは公民館まつりに志木小学校が連携しているという点も、今、学校単位で行っているPTAのバザーなんかはPTAがちょっと疲弊しながらやっているようなところがあるのが現状ですから、公民館まつりとPTAが一緒になって連携したらより活気のある子どもがうれしくなるお祭りができるのかなと感じたりしました。

熊本委員 ああいう複合施設を作ると、いろんな補助金が使えて、かなり仕様が安く、良いものができるのかなあというような考え方が一つあります。それを一緒に使えるようにすれば、お互いに使い合ったりできるという良い面があります。それは役所の側から言えば、いろいろうまくできるかもしれないのかもしれない。

それで、何のために複合(いろいろな施設を集める)するのかなっていうことを視察に行って考えましたが、あそこの場合はやはりいろいろな方がそこへ集まってくるというのも一つの目的だったのかなと。子どもも集まる、お年寄りも集まる、いろいろな人が集まってくれば、市民がそこでいろいろな情報交換などができてそういう意味では良いのかなと思っているのですが、先ほどちょっとお話あったように、視察した2市は、ちょっと小ぶりな行政区域ですよ。木更津の場合やはりこれだけ広いので、同じようにはできないと思います。その地域ごとに、地元の方で、複合施設を作るとしたら、この地域では何を目的にすれば良いのかというのを話し合っ、骨格を決めて、そこから具体的に展開していくのかなと。全くまとまっていますが、そんなことを感じました。

安藤委員 私もこの視察に参加させていただいて、今まで複合化というのは、今すでにある施設をちょっとだけリノベーションするような、そういう施設を頭に描きながら話し合いに臨んでいたのですが、埼玉の例を見たら、まっさらにして、きちんと複合化施設を建てたという事例だったので、やはり理想的な複合化の施設を建てるということはこういうことなのか、やはり一から考えなければだめだなと考えを改めました。

先ほど吉田さんが言っていたのですが、私も台風で停電になったときに、岩根公民館に充電に行きました。公民館を減らすと、拠点が減ってしまうので、一中学校区に一公民館ぐらいが、木更津市では適正なのかなと思います。この数でも避難所になれば、物資が行き渡らないとか、情報が行き渡らないとかになる。防災に関して言えば、一中学校区一公民館でも、うまくいかない事例があるので、公民館は公民館として、ある一定の数が担保されて、その上で学校と複合化するとなったら、どうするかということ。例えば岩根のことを考えると、学校の中に公民館的な機能が入った複合施設になるとすると、どんどん子どもの数が減る中で、公民館と学校の複合化も難しいのが現実なのではないかと思いました。なので、複合化することにはあまり賛成じゃないと思えることがここ数日あったので、例えば、複合化施設は数箇所ぐらいで、あと公民館としてそれなりに数が担保されるっていうのが良いのかなと思います。

森廣委員 私も参加させていただきまして、複合施設と最初聞いたときには、単純にまとまっていけないかと思いました。私は畑沢ですけど、畑沢中学校と公民館が隣で、文

化祭はフェンスを開けてつなげて同じ会場でやるので、そういうイメージでいたんです。

志木市のいろは遊学館は、元教育長の思いが強く、そのリーダーシップで実現されたと伺いました。もう一つの吉川市の小学校も現在の校長先生が建設の際に関わっていた方でした。やはり誰かリーダーシップをとる人がいて、違う機関も全部まとめていける方がいないとうまくいかない。まとめるのはとても難しいと感じました。第一中学校の耐用年数が終わるのが近いようですが、木更津市も考えていくことが必要なのかなと思いました。

佐藤委員

私は視察の参加できませんでしたが、まだまだ教育界の中、学校現場の中では、このような複合施設の議論、話題はほとんどないです。そういう状況の中で、学社融合の複合施設の有効性とか、いろんなメリットとかという話があってすぐに進んでいってしまうという部分については、どうなのかなと思います。一朝一夕にはいかないのではないかという懸念があるというのが一番感じているところです。非常に魅力的な面っていうのも確かにこの中にはあると思います。社会に開かれたっていう部分が非常に強く言われていますから、そういう部分では、いいのかなと。ただどうやって、その有効活用を図っていくかというノウハウがまだないし、そういう点では、立ち上げていくときの労力がかなり必要だろうと思います。外部の人との接点ということはどういう感じになっていくのか想像がつかないのですが、安全面という部分から、どうなんだろうと思います。

学校現場の職員も含めて、議論、意見の交換が必要です。また実際にそういう複合施設の学校職員の本当の思いはどうなのだろうと思ったりします。

城戸委員

いろいろ感じたことはありました。志木小学校の話で良かったなと思ったのは、公民館利用者と子どもたちが一緒に給食を食べると日あるということと、子どもが大人を怖がらないで、平気で物が言えるような子どもが多くなったということ聞いてとても良いなあと感じて聞きました。

でも、建物を見たとき、私はとても迷子になりそうで、これは私個人の感じですが、ああいう狭苦しいごちゃごちゃしたところでは、伸び伸びした子は育たないんじゃないかなって思いました。吉川市美南小学校は、何も無いところに新しい住宅が建って、敷地がいっぱいあったから、ああいう素晴らしいものができたと思うのですが、両方とも私はあまり良いとは思わなかったです。自分の思っているものとは違うなっていう感じがしました。

新しいもの、素晴らしいもの、便利なものというように、走り過ぎているような気がして、私は、古い建物を、みんなの知恵を出し合って、温かいものに作り変えて、もっと人間の心を育てたらいいのではないかと思いました。複合施設というのは、言葉で言うのは簡単だけど、とても作っていくのは難しいと思います。

内田議長

ありがとうございます。それでは改めて、橋本さんと地曳さんから、率直な感想をもう一度いただければ。

橋本委員

学校の中にいろいろな人が出入りするのとはとても良いなあと感じていて、実は横浜でも学校の中にコミュニティスクールというのがあって、そこにいろいろな地域の人が入りして、夜もそこで活動して、校庭も使って活動してるので、それは慣れているから、地域の大人が地域の子供と日常的に触れ合えて良いと思っています。ただ問題があって、校長先生が変わるたびに態度が変わる。そこが難しい。

地曳委員

今、「複合」が話題になっているし、木更津市は「オーガニック」で、まちづくりではコンパクトシティという言葉が生まれるのですが、その言葉が生まれるのは、

その思いを持った人が、その言葉を発するわけで、強い意識を持った人はそれで良いし、それが継続すれば良いのですが、その人以外にはなかなか繋がらない。だから、今たまたまこの「複合」と言っているけれど、本当に難しい。広く認知されて、未来永劫続くような形での「複合」というのがあれば良いが、ただ財政的な、資本の投下を効率良くするとかそういう安易な発想での複合というのはなかなか長続きしないのではないかと考えています。全然、社会教育に関係ないことですが、そういうことを思っていました。

内田議長

ありがとうございました。皆さんにお一人一人ご意見を聞かせていただきました。いろいろな意見があって良いと思います。この場で結論を求めるわけではありません。

施設を集約して、大型化したほうが良いのではないかという流れの中で、実際自分たちが、被災者になったとき、やはり近くにあったほうが良いのではないかというご意見もいただきました。そして、物ばかりを作るのではなくて、今ある資産を大事にしたら良いのではないかというお話もありました。

自分も視察に行かせていただき、正直2つ見た中で一つ目のいろは遊学館の方は、迷路みたいでした。でも、学校、社会教育施設が完璧に分かれていると思っていたのですが、ビニールのカーテンのような仕切りのところもあって、予想外に緩やかだった。

もう一つの学校の方は、学校施設、公民館施設、共用スペースっていう形で、比較的わかりやすい構造でした。それぞれにメリットデメリットがあって、そんな中で木更津市にどれが良いのかというのも、今後またいろいろなところを見る機会もあるかと思っていますので、そんな中で社会教育委員としての立場の中で、社会教育、学校教育がうまく交わるようなものが提案できれば良いと考えています。次回また皆さん方と話し合いの時間を設けたいと思っています。

内田議長

次に、この先の社会教育委員会会議の進め方について皆さん方にご協議いただきます。先日、私と副議長の方と事務局とで、少し、今後の話し合いの道筋的なものをお話しました。そのあたりのご説明をまず事務局からお話していただきまして、それから皆さんで話し合いたいと思います。

#### **事務局から説明**

内田議長

事務局からご説明がありました。これまでの社会教育委員の会議は、公民館のこと、或いは、社会教育施設について、非常に掘り下げていろいろな話をさせていただいたところですが、ちょうど年度が代わり、今年来年でこの社会教育委員の皆様方の集まりが一期でございますので、その中で一つ研究テーマを決めて、皆さん方のご意見を集約してはどうかというご提案です。

次回までに、こういうことをこの会議で、1年間かけて大体、討議したいということを、1人一つずつ考えてきていただき、その中からテーマを絞りたいと考えております。事務局から次回までの間に資料をご提供いただけるとのことですがいかがでしょうか。

地曳委員

そういう研究テーマを設けて研究すると非常に良いことなんですけど、時間が足りないのではないですか。年4回しかなくて、それこそ社会教育は、非常に幅も広い奥行きもある領域ですから、すごく懸念を感じます。

研究テーマを設けるということに対して、委員の皆さんの意見、考え方を聞いてからでも良いのではないかと考えています。

先ほど施設を中心に、というお話がありましたが、その施設に伴うその委員自体の社会教育に対する考え方、思いとかそういうのは発言されてきたと思うので、別

にハード面のだけに偏っていたと私は思ってないです。そういうことも含めて、今日は出席者が少ないけれど、委員の人たちが今後の進め方にどう思っているかということをもうちょっと聞いてからでも良いのではないかと私は思いました。

皆さんが進め方について、こういう研究テーマを設けて皆で一生懸命勉強したいと言えば、それはそれでいいし。皆さんはどうなんですかね。

熊本委員

テーマを決めるっていうことは、何か社会教育委員の皆さんで何か方向性を出して、こんなことをやればというような提言と言っていいのかどうか、そういうことを目指していこうかという意味もあるのですか。

内田議長

そうですね。それともう一つは、先ほど言ったように、今までの中で、地曳さんが今おっしゃったように、それに特化したというつもりはないかもしれないけれど、どちらかというところの方に議論が集中したので、社会教育委員会議会で取り上げるものは、もっと広いものがあるかと思います。ただ、その中で例えば社会教育施設に話がいても結構です。結構ですが、一度ちょっと視点を変えていただいて、こういうこともあるよ、ああいうこともあるよ、という投げかけをまずさせていただいた中で、例えば、今日この場で決めても良いのですが、皆さんに考えていただく時間が必要ではないかと考えました。

時間的なものという話もありましたが、時間的なものというよりもどちらかというところ、そちらの方の思いが強かったところです。

それともう一つ、討議するための時間がないという話がありました。それについては、年間の定例会の回数は決まっておりますけれども、例えば諮問をいただいてそれに対する答申をした場合には、小委員会的なものもやったこともございます。ですから、皆様方の熱意があって、一つのもを作り上げようという気持ちがあれば当然それは考えているところでございます。今地曳さんや熊本さんからもお話がございましたが、今現在、研究テーマを持っている方がいらっしゃれば、この場でお話いただいても結構だと思います。ただ、最終的な決定については、今日、いらっしゃらない委員等もございますので、最終的には次回の会議でと考えております。

橋本委員

私は、大人が、どれだけ力をつけていけるか、市民として力をつけていけるかということに興味があります。子どもがいないときは、家と職場との往復だけで何の不自由もなくできていたのに、子どもができると、そこだけでは、うまくいかないことが当然起きてくる。そのときに、自分たちは何を社会に求めて、或いは、何を自分がその社会に対して負担をして、子育てを地域の中で一緒にしていくのかという意識がどうすれば育つのだろうということに興味があって。それでずっと子育てのいろいろな保育を試してみたり、赤ちゃん学級をやってみたり、サロン開いてみたり、遊び場を作ってみたりとやってきたのですが、木更津市のいろいろな事業を見てみると、13年前と比べて随分変わってきています。広報の仕方も随分変わってきていて、子育てについてわかりやすくなってきています。ただ、それが今の子育てを始めた人たちにどれぐらい効果があるのだろうかとか、親はどのぐらい育て、社会の一員として育ててきているのだろうかというところが気になっていて。自分の子育て時代に不便だったことを変えようと思ってやってきたことだけど、今の人たちにそれが合っているのかということが気になっています。もしかしたら合わないのではないかと。だったら今の人たちの気持ちをどうやって聞けばいいのだろうかというのは、とても気になっていて、そういうことを、調べられたら良いと思っています。

城戸委員

最近本当にいろいろなことを感じるのですが、今は過渡期だと思います。神戸の

小学校の先生が先生をいじめるといふ事件がありましたが、気持ちが育ってないのではないかと思います。

次々に台風が来て、今度はもっと装備をしなくてほと、やっているけど、なぜ台風がどんどん来るかということとは考えない。飛行機がぼんぼん飛んでもものすごい排気ガスを出して、熱中症にかからないように、エアコンをつけろと言うけれど、エアコンの熱風がどうなっているかどうか、あんまりそういうことを考えない。

若い人の教育と、私なんか考える教育は大分違って、口出しができないみたいなことを、いろいろな場面で考えます。

事務局 先ほどの地曳委員の発言は、会議の進め方、事務局の提案に対して皆さんが同意されるかどうか、まずお諮りしてから次進んだほうがいいのではないかとのご提案だったと思うので、この場でお諮りいただいても良いですし、決議自体を次回に持ち越していただいてもよろしいかと思います。

提案の意図としては、定例会ごとにさまざまなテーマを協議をしていただいても、言いっぱなしになってしまうところがあり、一つのテーマを時間をかけて協議することも社会教育委員会議としては必要なのではないだろうか、ということです。

内田議長 今回の事務局の方からご意見がありました、少し精査します。先ほどお話の中で、2年間を一つのスパンとして、その中で共通のテーマを決めて、話し合う場にする方法が一つ。もう一つは、そういった共通のテーマを設定しないで、その都度テーマを設けると。どちらにするかまず方向性を決めたいと。

事務局 付け加えれば、その都度、喫緊の課題は出てきますので、そういった時には、当然ご意見を伺いすることになります。そ

内田議長 決を採ってみましょうか。

地曳委員 二者択一はできません。僕はこの中で古い方だと思うのですが、今までの社会教育委員会で話し合ったことは、その都度その時その時の社会教育の中で問題になることを事務局から提案（協議テーマ）があって、意見を言ってきたわけです。だから、いきなりこういうことになってしまうと、逆に今、社会教育、生涯学習とかをやっている中で、僕たちの意見を聞くような課題はないのかなと思ってしまいます。

内田議長 多分その辺について鈴木さんが、付け加えた中に入っているのではないかと思います。

地曳委員 重く大きな課題が多かったので、それを中心にやってきた思いを持っているのですが、別にそれはそれでいいと思っています。他自治体の社会教育委員会議のものを讀んだりするとか調査研究をされている社会教育委員会もあります。ですけど、私たちは諮問に答える以外は調査研究というのをできていないので、年4回の会合で、時間的な制約の中で、調査研究ができるのかってというのが、最初からもう頭に引っかかって、白紙状態です。

橋本委員 地曳さんは、今の社会の中で、このことを皆で主体的に話し合っただけで社会教育に反映しようというようなことはないのですか？

地曳委員 たくさんあります。

橋本委員 それを出してください。それを皆で出して、一緒に話し合いをして、木更津市がよくなる方法で、社会教育力をつけるような方向で話をするのがこの会議ではないかと思います。

地曳委員 それは事務局から提案があったときに、自分の思いとして言っています。

橋本委員 それは提案されたから言うのであって、提案を待っていないで自分から言っても

いいわけで。

地曳委員 いろいろな提案に対して自分の思いを十分伝えていきますから、それは聞く人が聞けば、地曳はこういうこと思っているのだということはわかってきていると思っています。そのことをことさら調査研究のテーマにしようとは思っていません。

橋本委員 ちょっと理解できない。

内田議長 皆さんいろんな意見があつて、それがまた良いところなのですが。

正副議長で事務局を交えて話した中での認識は、確かに諮問をいただいてそれに対する答申もいはいけれど、委員として長くやってきたメンバーと新しいメンバーも入り混じった中で、自分たちからの発想の中で、考えていくテーマがあったら良いのではないかということでした。

提言が完成できるかどうかわからないけれど、自分たちの発想の中でやっていただけたらいいなっていうことで、お話をさせていただいたところなのですが、ちょっとわかりにくかったかもしれません。

熊本委員 例えば、高齢者と若い人たちが一緒になって学び合えるような、そんな雰囲気の世界学習みたいな内容とか、それからお互いにこういういろんなところで繋がり合えるような場所づくりみたいな、そんな感じのイメージいいのでしょうか。

内田議長 もちろんそういうテーマでも良いと思います。

城戸委員 「生涯学習とは何か」ということも皆さんそれぞれ考え方が違うのではないのでしょうか。答申するとかそういうことをやっていくっていうことも大事なことだけど、他に何を生涯学習として考えてらっしゃるか。次の機会にでも、逆に教育委員会の皆さんから教えていただけると理解しやすいし、自分は思いつかなかったけどそういうことなんだっていうことがわかるので。

事務局 このことについてはいろいろなご意見がある中で、無理に進めることでもないので、皆さんにご理解いただけるような形で進めていくのがよいかと思うので、次回に持ち越すということで、お願いできればと思います。

内田議長 ありがとうございます。では持ち帰っていただいて、イメージ的なもので結構ですから膨らませてください。それで次回、それも含めたところでまた話し合いを持ちたいと思います。よろしいでしょうか。

それではその他、事務局からまたご報告をお願いできればと思います。

#### **事務局より報告・連絡**

内田議長 他にないようでしたら、以上を持ちまして、「令和元年度社会教育委員会議第2回定例会」を閉じさせていただきます。

皆様の協力で本日の定例会を無事終了することができました。ありがとうございました。

事務局 長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。また今後とも、本市の社会教育活動推進のため、委員の皆様にはなお一層のご支援・ご協力をお願いいたします。開催いたします。